

【対談】三木市長 × 三木市医師会 コロナ禍の1年を振り返る

三木市医師会
副会長
神澤光江
(小児科神沢クリニック)

三木市医師会
副会長
中村正樹
(中村内科胃腸科)

三木市医師会
会長
堀井弘幸
(ほりい医院)

三木市長
仲田一彦



本市の新型コロナウイルスワクチン接種は、10月21日時点で対象者全体の84.5%の方に1回目(2回目81.1%)の接種を実施しました。

個別接種(医療機関での接種)や旧志染中学校などで行った集団接種は、日ごろから学校の校医やまちぐるみ健診などでお世話になっている三木市医師会の協力により実現しました。

このたび、仲田市長と三木市医師会の堀井会長、中村副会長、神澤副会長が集い、コロナ禍の1年について語り合いました。

コロナ禍

この1年を振り返って

コロナ禍に感じたことをお聞かせください。

堀井先生 令和2年1月に新型コロナウイルスの国内感染が確認されたときは、まさかここまでになるとは思いませんでした。実際に身近に感じたのは感染者の発生で北播磨総合医療センターが休院したときです。まだ感染者は少なかったため、センターが休院している間だけ、患者さんの受け

医療の現場でコロナ禍が変わったと思っ点はありますか。

中村先生 新型コロナウイルスへの感染を心配し、健診や受診を控える患者さんが増えたと思います。コロナ禍前なら毎月受診されていた方が、2〜3カ月に1回など、受診頻度を独自に変えられることがあります。季節が変わると体調は大きく変化します。特に慢性疾患にかかっている方は、体の状態などを確認するため、少なくとも30〜60日の間隔を目安に受診してほしいです。

仲田市長 受診控えの解消に向けた対策はどのようにされていますか。

神澤先生 発熱外来とその他の患者さんが同じ空間に居ることがないよう、大きな病院では入口など分けて空間的に対応し、診療所では、診察時間を分けるなど時間的な隔離を行っていることが多いです。手間はかかりますが、患者さんは安心して来院されているようです。

コロナ禍で良くなったことはありますか。

堀井先生 コロナのおかげでオンラ



入れを各病院で対応すればなんとかなると考えていました。しかし、その後次々と感染者が確認されるようになり、影響は広範囲に及びました。

仲田市長 全国的にマスクやアルコール消毒液など、物の不足も深刻でした。そのような中、市は多くの団体・個人の皆さんから寄附をいただき、市民や学校園、社会福祉施設などにお届けすることができました。本当にありがたいことです。

イン会議は随分普及したと思います。「またいつか」と考えていた人の多くが積極的に利用するようになりました。

神澤先生 学会など遠くまで出向かなくてもよくなったこと、また、録画配信があるものについては、時間に縛られず、見たいと思ったときに見られるようになったことはとても便利に感じています。

仲田市長 私もオンライン会議が増えて、代わりに出張の機会が大幅に減りました。

神澤先生 健康面でいうと、皆さんがマスクや手指消毒など感染対策をされるようになったので、全国的には、例年と比べて激減しました。





急速に進んだ 新型コロナワクチン接種

接種率が8割を越えました。
接種体制はどうでしたか。

仲田市長 集団接種や個別接種では、医師会をはじめ医療従事者の皆さんにご協力いただきました。一時は国からのワクチンがなかなか届かないという状況もあり、ご迷惑もおかけしたと思います。

堀井先生 ワクチンの供給準備や集団接種会場の会場準備、誘導などに

3回目の接種について

仲田市長 市では新型コロナワクチンの3回目接種に向けて準備を進めており、12月には医療従事者、来年1月〜2月には市民に向けた接種を開始する予定です。

堀井先生 血中の抗体量(抗体価)は接種とともに低下します。3回目の接種では、2回目よりもさらに抗体価が高くなり、感染しても症状が出ないほどになると考えられています。あとは治療薬ができれば新型コロナに対する捉え方はインフルエンザ並みになるのではないかと考えています。

は大勢の市職員が協力してくれました。集団接種の開始時点で、医師1人が1時間に接種できる人数は20人が限界でしたが、1時間に40人まで接種できるようになりました。皆さんがそれぞれの持ち場で使命感を持って対応した結果だと思っています。

ワクチン接種について課題はありますか。

中村先生 心配なことはインター

第6波はやってくる？ 今のうちからの備えが大切

第6波がくると言われています。今私たちにできることは。

仲田市長 感染拡大期を一つの災害として捉えてはどうかと考えています。防災の備えとして水や食料を備蓄するように、例えば自宅療養をせざるを得なくなった場合に、日ごろの備えが自分や家族などを守ることにつながるのではないのでしょうか。
堀井先生 おっしゃる通りだと思います。

ネットなどでワクチンに関する噂が飛び交っていることです。マイナスイ面の噂ばかりが目立つので、接種を検討される方にも影響がでるのではと感じています。

神澤先生 副反応を多くの方が経験されていることも影響しているのかもしれないですね。私の病院でも10代の2人の患者さんが接種後の経過観察中に倒れることがありました。そのため、気分がすぐれない方などには横になってもらって接種を行うようにしています。

堀井先生 接種後に倒れる原因は、緊張やストレスにより血圧が下がる

ます。濃厚接触者となった場合でも10日〜14日間ほどは自宅療養が必要になります。水や食料などはいざ災害が起きた場合でも使えるので、ぜひ今のうちから備えておくのと良いと思います。

仲田市長 市では、自宅療養でお困りの方向けに、10月から相談ダイヤル(☎86・1056)を開設しています。希望者には、動脈血の酸素濃度などを測るためのパルスオキシ

血管迷走神経反射がほとんどです。HPVワクチン(子宮頸がんワクチン)接種の時にも同様の状況が見受けられました。接種に関して何を信じれば良いのかが分からない方や不安がある方は、医師会や(市)ワクチン接種対策室に相談してください。不安を解消し、納得して接種いただけたらと思います。また、ワクチン接種の対象は12歳以上です。小さいお子さんが居るところでは、周りの大人が接種をしておくことが大切です。

メーターの貸出や食料の配達などを行う体制を整えました。必要な方にはぜひ利用いただければと思います。

市民の皆さんへのメッセージ

仲田市長 緊急事態宣言が解除されましたが、また感染拡大期に入っていく可能性は十分にあります。市民一人一人がマスク着用・手洗い・3密回避などの感染対策を徹底し、いざというときの備えも行いながら、市一丸となってコロナ禍を乗り越えていきましょう。本日はありがとうございました。

一同 ありがとうございます。